

# WEEKLY REPORT

例会日 木曜日 12:30~13:30  
例会場 上野精養軒 TEL.03 (3821) 2181  
事務所 〒130-0013 東京都墨田区錦糸 1-1-5 A ビル 6F  
TEL.03 (5637) 4602 FAX.03 (5637) 4611  
<http://www.tokyo-kohoku-rc.org>



葛飾北斎描く千住より眺望の富士

## 東京江北ロータリークラブ



会長 張替俊光/会長エレクト 高橋史郎  
幹事 中山高德/副幹事 鈴木又右衛門  
会報・IT委員長 小出康夫

Rotary



伝統  
踏み出そう、新しい一歩

RC会長  
張替 俊光



IMAGINE  
ROTARY

RI会長  
ジェニファー E. ジョーンズ

第 2972 回

2022 年 9 月 29 日

Rotary Rate 139 円

### 2022 年 9 月 22 日 第 2971 回例会報告

点 鐘  
ロータリーソング 「それこそロータリー」

来 賓

- ゲスト  
中尾祐希氏 (ゲストスピーカー)  
アザマトフ アサドベク君 (米山奨学生)

- ビジター  
なし

セ レ モ ニ ー

- なし

会 長 報 告

- 2015 学年度 当クラブ青少年交換派遣学生  
鈴木響子さんはデンマークに派遣されて  
いましたが、大学を卒業し、現在はデンマ  
ーク大使館に勤めているとの連絡をいた  
だきました。今後、一層のご活躍を願っ  
ております。尚、掲載記事などを掲示板し  
ますのでご覧ください。

幹 事 報 告

- なし

委 員 会 報 告

- 会報・IT委員会…クラブのホームペ  
ージが変わりました。見やすくなっており  
ます。新しい情報や行事予定も見やす  
くなりました。

出 席 報 告 会員45名中35名 出席率78%  
Remote 5名含

前々回の出席率 97.7% (9/8)

### ニコニコ (●^o^●) ボックス

- 御祝 なし
- 張替会長 中山幹事…季節の変わり目です  
ので、どうぞご自愛ください。中尾祐希様、本  
日の卓話、宜しくお願いします。
- 松井君…本日の卓話、中尾さんをご紹介します。  
楽しみにしております。
- 高橋 (秀) 君…健康な身体を与えてくれた両親  
とご先祖様に感謝。

合計 4,000 円 累計 877,510 円

### 卓 話



9月22日(木)の卓話は、  
株式会社R I G H T S.  
代表取締役 中尾祐希氏  
より「Be Happy w  
ith Sports!ス  
ポーツの力を生きる力に」  
という演題でお話しをい  
ただきました。

紹介者 プログラム委員会

THE ROTARY CLUB OF TOKYO-KOHOKU

# ウクライナ危機への ロータリーの対応

My Rotary

ロータリーは、ウクライナでの戦争による人命の喪失および人道的危機の深刻化を深く懸念しています。私たちは地域に根づいたネットワークと数十年にわたる経験を生かし、現地で迅速に行動を起こしています。



**寄付が活用  
されています。**

2022年3月3日から4月30日までにロータリー災害救援基金に寄せられたすべてのご寄付は、ウクライナ難民またはこの戦争の被災者支援が行われている地域への人道的救援活動に優先して活用されています。

世界中の方々からの温かいご支援のおかげで、ロータリーは1,500万ドル以上の寄付を募り、水や食糧、シェルター、医療物資、衣服といった必需品のために既にこの資金を活用しています。

現在までに、この戦争による被災者支援のために、272件の災害救援補助金（総額890万ドル）が授与されています。ロータリー財団は引き続き、この寄付をウクライナとその周辺地域での人道的救援活動に活用していきます。地区は2022年12月31日まで、この目的のために災害救援補助金を申請できます。

5月1日以降の災害救援基金へのご寄付は、復興援助を必要とする全世界の被災地で活用可能となります。

My Rotary より  
クラブ・地区による救援活動の連絡先と支援方法や、救援活動のリストとその連絡先なども掲載されています。

## 本日の卓話

「私の職業奉仕」  
メンバー  
海老沼孝二君

## ウクライナ難民に安全な住まいを提供 ポーランド ロータリー会員



2022年3月、ロシアがウクライナへの侵攻を開始した直後のこと、ポーランド東部の都市 Lublin から 30km 少々離れた町ヴォイチェフの家に、難民が続々と集まりました。

Lublin-Centrum-Maria Curie-Sklodowska ロータリークラブの会員であるヤヌス・ミラノフスキーさんと妻のカタジナ・スミギン＝ミラノフスカさんは、2021年にこの家を購入した当初、これを中毒に苦しむ10代の若者のための施設にしようと考えていました。しかし、ウクライナからの何千人もの難民が滞在場所を必要としているため、夫妻は代わりに彼らにこの家を開放しました。

ナタリア・プロクホールさんは3月上旬にポーランドに到着しました。彼女は、救援機関の支援を受けた聴覚障害者のウクライナ人17人のうちの一人で、ほかの難民たち（合計29人）と一緒にこの家に住むことになりました。

ウクライナ東部のルハンスク地方で育ったプロクホールさんが家を離れるのは今回が初めてではありません。2014年にロシア軍がウクライナのドンバス地方の一部を占領した際、彼女と母親はキーウ（キエフ）に逃れました。「家族が再び命をかけて戦わなければならないことが信じられませんでした」と彼女は言います。「それは、恐ろしい夢のようでした」

プロクホールさんは、家族が無事であることに感謝していますが、聴覚障害者が仕事を見つけるのは難しいことが多いため、すぐにウクライナに戻ることを願っています。

My Rotary より  
寄稿者：Dorota Wcisła、  
写真提供：Monika Lozinska

## 次週卓話予定 10/6

「『古稀』でも凡僧」  
メンバー  
畠山信弘君